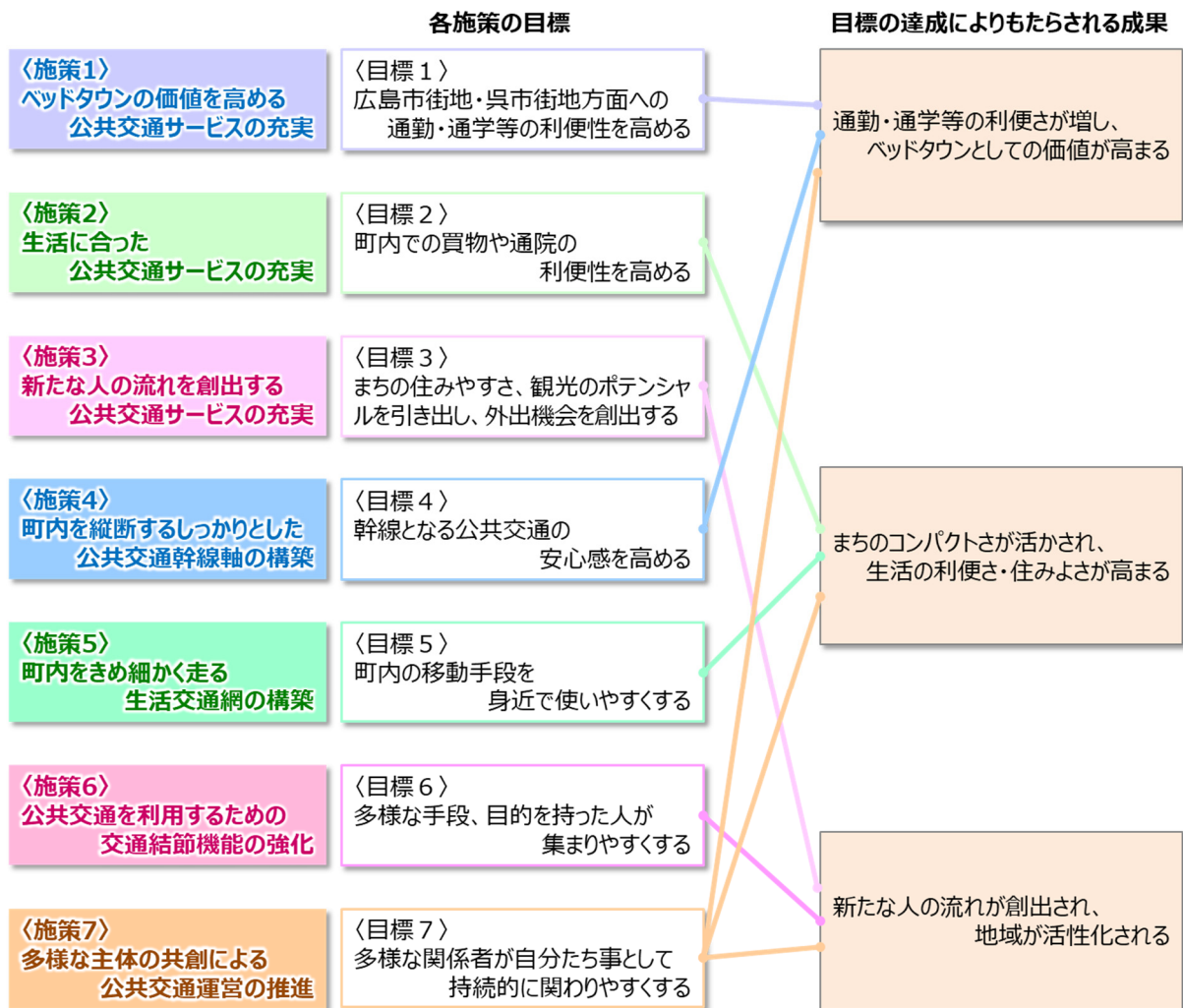


5. 評価指標と目標値

各施策の実施により計画の目標が達成させることでもたらされる成果を念頭に、計画の目標の達成状況を確認するための評価指標および目標値を設定します。目標値は、15～20年後のまちの将来を支える持続可能な公共交通とすることを見据えつつ、計画期間の令和12年度における目標値として設定します。今より便利な利用環境の整備や利用促進活動を行うことで、新型コロナウイルス感染症の拡大前や平成30年豪雨災害前の平成29年における利用状況・収支状況に回復させることを目指します。



各施策の目標	評価の視点、評価指標	指標の定義	現況値	目標値
目標1： 広島市街地・呉市街地方面への 通勤・通学等の利便性を高める	〈視点〉公共交通を利用した通勤・通学のしやすさを評価 ■指標1：通勤・通学でバスを利用する人の割合	居住人口に対する通勤・通学の利用者数（利用者数÷15～64歳の居住人口） ➤ バス事業者提供データ（全体の5割を占める6・7時台に町内で乗車する人数）	5.6% （令和3年10月平均）	8.7% （平成29年水準）
目標2： 町内での買物や通院の利便性を高める	〈視点〉公共交通を利用した日常生活のしやすさを評価 ■指標2：買物・通院で公共交通を利用する人の割合	居住人口に対する買物・医療施設最寄りの停留所の乗車人数 （乗車人数÷15歳以上の居住人口） ※おでかけ号は生活福祉交通のため全利用者を対象（年間利用者数÷運行日数） ➤ バス事業者提供データ（路線バス）、タクシー事業者提供データ（おでかけ号）	1.5% （令和3年10月平均）	2.3% （平成29年水準）
目標3： まちの住みやすさ、観光のポテンシャルを 引き出し、外出機会を創出する	〈視点〉公共交通を活かした賑わい創出の取組み状況を評価 ■指標3：公共交通沿線でのイベント回数	公共交通利用促進のためのイベント数（バスイベント、乗り方教室等） ➤ 熊野町が主催・共催で係わった実績	1回/年 （令和5年度）	1回/年 （現状程度を維持）
目標4： 幹線となる公共交通の安心感を高める	〈視点〉まちの中心部における公共交通の利便性を評価 ■指標4：公共交通幹線軸のバスを利用する人の割合	居住人口に対する熊野萩原車庫前～火ノ原間の路線バス乗車人数 （乗車人数÷居住人口） ➤ バス事業者提供データ	1.1% （令和3年10月平均）	1.7% （平成29年水準）
目標5： 町内の移動手段を身近で使いやすくする	〈視点〉公共交通のきめ細かさを評価 ■指標5：公共交通利用圏域の人口割合	バス・おでかけ号の停留所から250m以内に住む人の割合 ➤ 国勢調査等	97.3% （令和4年）	97.3% （現状程度を維持）
目標6： 多様な手段、目的を持った人が 集まりやすくする	〈視点〉公共交通と他の移動手段との乗継のしやすさを評価 ■指標6-1：パーク＆ライドの利用者数 ■指標6-2：自転車駐輪場の利用台数	パーク＆ライドの契約者数 ➤ 事業者提供データ 自転車駐輪場の駐輪台数（自転車、バイク） ➤ 実態調査	パーク＆ライド台数：33台 駐輪台数：190台/日 （令和5年度）	現状以上
	〈視点〉バスと鉄道の乗継のしやすさを評価 ■指標6-3：矢野駅での接続便数の割合	熊野萩原車庫前を発着するバス路線のうち、矢野駅の電車出発・到着時刻（広島駅方面）に15分以内に接続している割合 ➤ 鉄道事業者・バス事業者の時刻表	82%（23便） （令和5年10月）	89% （朝夕の乗継を改善）
目標7： 多様な関係者が自分たち事として 持続的に関わりやすくする	〈視点〉多様な主体が共創する公共交通運営による効果を公共交通利用の側面から評価 ■指標7-1：公共交通を利用する人の割合	居住人口に対する路線バス、おでかけ号の利用者数（乗車人数÷居住人口） ➤ バス事業者提供データ（路線バス）、タクシー事業者提供データ（おでかけ号）	6.3% （令和3年度）	9.9% （平成29年水準）
	〈視点〉多様な主体が共創する公共交通運営による効果を交通事業の事業性の側面から評価 ■指標7-2：公共交通事業の収支	公共交通事業の収支率（経常収入/経常費用） ➤ バス事業者提供データ	68% （令和4年度）	82% （平成29年水準）
	〈視点〉公共交通に対する行政負担を評価 ■指標7-3：公共交通への公的資金投入額	公共交通運行経費への公的資金投入額 ➤ 歳入歳出決算書等（国・県補助を含む）	5,726万円/年 （令和4年度）	現状程度を維持